

○「もう一つのオリンピック」があることを知っていますか？

パリオリンピックでは、日本選手の活躍が光りました。海外でのオリンピックで、金メダル20、銀12、銅13、合わせて45個のメダルは過去最大だそうですが、それよりオリンピックに参加した選手たちのそれぞれの健闘をたたえたいと思います。8年前のリオデジャネイロ大会から2回目の選手、3年前の東京オリンピックから連続で出場した人、今回のパリで抜擢され活躍した人など様々でした。

8月12日（日）にオリンピックが終わって、その余韻が醒めない中、パリでは、今週8月28日（水）から9月9日（日）まで、12日間同じ会場を使ってパリパラリンピックが開催されます。この夏季パラリンピックは今回で、17回めになります。

パラリンピックとは、身体に障害のある人たちが、その障害の状態に応じたスポーツを行うもので、現在はオリンピックと同じ場所で行うことになりました。今回のパリパラリンピックは、22競技549種目実施が予定されています。日本ではNHKが期間中、30分程度のハイライトを連日放送する予定です。

パラリンピックの起源とされているのは、1948年7月28日、ロンドンオリンピック開会式と同日に、イギリスのストーク・マンデビル病院で行われたストーク・マンデビル競技大会とされます。ストーク・マンデビル病院は、第二次世界大戦で脊髄を損傷した軍人のリハビリテーションのための科が専門にあり、車椅子の入院患者によるアーチェリー競技会が行われました。この競技会は最初は、入院患者のみの競技大会でしたが、毎年開催され続け、1952年には国際大会となり、第1回国際ストーク・マンデビル競技大会が開催されました。1960年には、オリンピックが開催されたローマで、国際ストーク・マンデビル競技大会が開催され、この大会が現在、第1回パラリンピックと呼ばれています。第2回大会は、1964年にこの年の夏季オリンピックが開催された東京でした。

60年前の第2回パラリンピックについて、少々長くなりますが、紹介したいと思います。オリンピック終了後の11月8日から5日間の予定で、東京の代々木公園をメイン会場に、世界22か国369人の選手が参加し、アーチェリーや槍投げ、砲丸投げ、車いす競争などの陸上競技、車いすバスケットボール、パワーリフティング、卓球、車いすフェンシング、水泳等9競技17種目が行われました。

開会式では当時の皇太子殿下夫妻（現在のの上皇上皇后夫妻）が出席され、「…スポーツがあなた方の心身の支えとなり、社会復帰される早道であったと確信いたします。世界中の身体障害者に希望と価値ある生活をもたらすこの大会の業績と精神に敬意を表します。…この大会が、我が国の身体障害者に大きな希望と激励を与えてくれると思うからであります。どうぞこの競技会のすべてに全力を発揮するようにしてください。第18回東京オリンピック大会のスローガンであった『世界は一つ』という理想をあなた方のスポーツマンシップを通じて成し遂げることができましたら、みなさんとともによろこびに堪えないところであります。…」というご挨拶の後、全選手を代表して青野繁夫選手が「私たちは重度の障害を克服し、精神及び身体を錬磨して、愛と栄光の旗の下、限りない前進を期して、正々堂々と戦うことを誓います」と選手宣誓をしました。この時のご挨拶と選手宣誓の内容は、今でも通じるものがあると考えます。

日本人選手は53人が参加しました。金メダル1、銀メダル5、銅メダル4の結果でしたが、まだ日本では身体に障害のある人が存分にスポーツに親しめる環境が整わず、ヨーロッパを中心にした外国人選手にはかなわなかったといわれていました。このパラリンピックのことは、稲泉連さんの「アナーザー1964パラリンピック序章」という本から紹介しました。

パラリンピックもオリンピックと同じ場所で行うことは、東京大会でいったん中断し、この後の国際大会は車椅子競技者のための国際ストーク・マンデビル競技大会のみが行われていました。

国際オリンピック委員会 I O C は、これらの大会にオリンピック類似の名称を使うことに難色を示していたため、それぞれの大会で呼ばれていた「パラリンピック」という名称は、どれも愛称で正式名称ではありませんでした。1985年に、国際オリンピック委員会は、パラリンピックという呼称を用いることを正式に認めました。開催時に既に「パラリンピック」と呼ばれていた大会は、この次の1988年ソウル大会からであり、この大会はオリンピック組織委員会がパラリンピックに直接関わる初めての大会ともなり、この大会からは再び夏季オリンピック開催都市が夏季パラリンピックも開催されるようになりました。その後いくつかの話し合いの結果、オリンピック開催都市でのパラリンピック開催は正式に義務となりました。21世紀になって、パラリンピックの主催団体 I P C とオリンピックの主催団体 I O C が、パラリンピックとオリンピックの連携について合意し、2008年夏の北京大会、2010年冬、カナダのバンクーバー大会から I O C はパラリンピックについて運営・経済両面において I P C を支援することになりました。

私たちにとって、オリンピックの後にパラリンピックがあるのは当たり前とと思っていましたが、これは最近になってようやく形が整えられたものだったのです。今回、少々長くなりましたが、オリンピックとパラリンピックの関係について、簡単にお話ししました。興味のある人は、その由来や関係について詳しく調べてみてください。

○井上圓了先生の胸像がもう1つできました。

これまでも本校には、3号館の中庭に井上圓了先生の胸像がありましたが、現在の校舎1号館南館・北館が新築されて、3号館にある圓了先生の胸像は、グローバルコースの生徒を除いて、皆さんの印象や記憶にとどまらない状況でした。今回本校同窓会が、国旗や校旗を掲揚するロータリーに新たに井上圓了先生の胸像を立てていただきました。先日8月23日（金）に、その除幕式を行いました。

圓了先生については、高校2年生は、「チャレンジャー井上円了 自分の運命は自分で拓け」を読んで、感想文のコンクールを行っています。また、中学2年生は、今年から哲学の授業で私から3週連続で井上圓了先生について、「井上円了とは何者か。妖怪博士井上円了」などのテーマで学んでいます。東洋大学の学祖井上圓了先生の生き方や考え方が、本校には脈々と伝わっています。その圓了先生の姿を登下校の際に仰いで、チャレンジャーとして、皆さん一人一人、自分自身は、圓了先生をどのように発揮するかを考えてください。

○2学期が始まります

今日から2学期、新たな気持ちで学校生活を送りましょう。

今週末は本校が会場となる「第29回全国私立大学附属・併設中学校・高等学校教育研究集会」（通称 附属校サミット）が開催されます。これは本校の創立60周年を記念するイベントとして行うもので、数年前から準備を進めてきたものです。全国から多くの先生方に来校いただき、本校の教育の取り組みや施設についてみていただく機会です。

これが終わると9月、創造祭が待っています。猛暑というより酷暑であったこの夏に十分な準備はできなかったかもしれませんが、創造祭で青春のエネルギーを発散させてください。

※文章中に「障害者」「障害者」、「井上圓了」「井上円了」の表記の違いがありますが、引用文献からのもので誤記ではありません。